



撮影：政川慎治

野村万作 新狂言の会

闇に浮かび上がる能舞台、
水面に揺らめく二本のかがり火、
野村万作・萬斎親子が舞い謡う！。

演目 狂言「墨 塗すみぬり」

狂言「月見座頭(つきみざとう)」

狂言「首 引くびひき」

出演 野村万作 野村萬斎 石田幸雄 他

2016. 10/12(水)

開場 18:30 開演 19:00

黒部市国際文化センター

コラーレ (野外能舞台)

一般5,000円 高校生以下1,000円

障がい者手帳をお持ちの方4,000円

■当日は18時20分に、チケットの「整理番号」順に整列の上、順次ご入場いただけます。
チケットはコラーレだけで発売いたします。

- この公演は黒部市の助成により低料金でお楽しみいただけます。
- 未就学児の入場はご遠慮願います。公演中、未就学児を対象とした「一時保育(無料)」を実施しています。公演1週間前までにお申し込みください。
- 雨天が予想される場合は雨合羽等をご用意ください。天候によっては、会場がカーターホールに変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。

主催/公益財団法人黒部市国際文化センター 共催/チューリップテレビ 後援/黒部市 黒部市教育委員会 北日本新聞社

●お問い合わせ●

コラーレ 〒938-0031 黒部市三日市20番地 TEL.0765-57-1201 開館時間:9:00~22:30(土曜~23:00) / 毎週水曜日休館

秋の闇に浮かび上がる、
日本最古の喜劇“狂言”をご堪能ください。

秋の風情を感じながら

今年も秋の風情の新狂言でございます。

今回は、「墨塗」「月見座頭」「首引」という三演目をお目にかけます。私の演ずる「月見座頭」は本来、和泉流になく、大蔵流のみの曲でしたが、父六世万蔵が昭和三十年に試演して以降、私が演出に手を加えながら国内外で再演を繰り返して参りました。人間の二面性を描いた秀作でございます。変わって「墨塗」では、男女の虚々実々の駆け引きを、「首引」では、まるで人間の親のような親鬼の父性愛を描き出します。
秋の夜長にさまざまな狂言の奥深さをお楽しみ頂ければ、幸いです。

野村万作

野村万作
のむらまんざく

狂言師



一九三一年生。重要無形文化財各個指定保持者（人間国宝）。祖父・故初世野村萬斎及び父・故六世野村万蔵に師事。早稲田大学文学部卒業。「万作の会」主宰。狂言の秘曲である「釣狐」の演技で芸術祭大賞を受賞した他、紀伊國屋演劇賞、日本芸術院賞、紫綬褒章、坪内逍遙大賞、朝日賞、旭日小綬章など、多くの受賞歴を持つ。国内外で狂言普及に貢献し、ハワイ大、ワシントン大では客員教授を務める。古典はもとより新しい試みにもしばしば取り組み、代表作に「月に憑かれたヒコ」「子午線の記」「秋江」「法螺待」などがある。二〇一五年文化功労者顕彰を受ける。

野村萬斎
のちまゐさき

狂言師



一九六六年生。野村万作の長男。祖父・故六世野村万蔵及び父に師事。重要無形文化財総合指定者。東京芸術大学音楽学部卒業。「狂言ござる乃座」主宰。国内外の狂言・能公演はもとより、現代劇や映画の主演、古典の技法を駆使した作品の演出など幅広く活躍。九四年に文化庁芸術家在外研修制度により渡米。芸術祭新人賞・優秀賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、紀伊國屋演劇賞、朝日舞台芸術賞等を受賞。世田谷パブリックシアター芸術監督。

石田幸雄
いしだゆきお

狂言師



一九四九年生。野村万作に師事。重要無形文化財総合指定者。「雙ノ会」主宰。「雙ノ会」で芸術祭大賞、個人で観世寿夫記念法政大学能楽賞を受賞。数多くの優れた舞台歴を持つ野村家の重要な演者。また新しい試みの舞台にも意欲的な発表が多い。普及公演での的確な解説にも定評がある。「万作の会」の海外公演にもたびたび参加。学習院大学非常勤講師。

薪狂言 番組

解説 野村萬斎

火入れの儀

狂言

墨塗 すみぬり

訴訟のために遠国から都にやって来ていた大名が、無事解決したので帰郷することになり、太郎冠者を連れて都でなじみになった女の元に別れを告げに出かける。話を聞いた女は悲しげに涙を流すが、実は髪水入れの水で目を濡らして泣き真似をしていた！ それを見抜いた太郎冠者は大名に知らせるのだが、大名は信じようとしません。そこで太郎冠者は機転を利かせて……。「平中物語」などに見える古来の説話を素材にした狂言です。古今東西変わらない、男と女の「化かし合い」。結末はいかに？

大名 石田幸雄

太郎冠者 月崎晴夫
女 深田博治

後見 飯田 豪

狂言

月見座頭 つきみざと

仲秋の名月の夜。座頭が河原で虫の音に聞き惚れていると、街から月見にきたという男が声をかける。歌の詠み合いで意気投合した二人は、謡いつ舞いつさやかな酒宴を楽しむ。和やかなうちに別れの挨拶をかわし、座頭は気分良く帰途に就くが、突然……。
和やかな雰囲気の前半から一転し、後半は人間の不条理な心理が顕れる深さを持つ名曲です。人間心理の恐ろしさと美しさを巧みに描く佳作です。

座頭 野村万作

上京の男 高野和憲

後見 岡 聡史

狂言

首引 くびひき

播磨の印南野を通りかかった鎮西八郎が朝の前に鬼が現れる。娘の姫鬼に人の食い初めをさせたいという鬼に、為朝は、姫と勝負して負けたら食われよう、と提案する。親鬼は恥ずかしの姫を説得して腕押し・すね押しをさせるが、豪傑無双の為朝にはかなわない。苦戦する我が子に気がでない親鬼は、ある策を思いつき……。
豪胆な英雄・為朝に対し、可憐な姫鬼を華麗かつ懸命に応援する親鬼。人間以上に子煩悩な鬼の姿に、思わず顔がほころびます。鬼対人の戦い。さて、この勝負の行方は……。

鎮西八郎為朝

姫鬼 内藤 連

親鬼 野村萬斎

眷属 中村修一

〃 月崎晴夫

〃 高野和憲

〃 飯田 豪

〃 岡 聡史

後見 深田博治